

魔法の言葉

静岡県 浜松西高等学校中等部

2年 大橋 葉菜香

これは、下校時に乗車していたバスの車内でのある出来事についての話である。

私はその日、部活が終了した後、駅から7時過ぎに発車するバスに乗った。その時期は、テストがあったり、部活動の大会が近付いていたり、宿題が多かったりとすごく疲れている頃だった。

特にその日は、部活動の練習がきつかったため、私の体力は限界だった。重い足取りでバスに乗車し、席に座った。発車する前に運転手さんは、「〇〇時〇〇分発車の△△経由××駅行きです。□□駅にはまいりませんのでご注意ください」と、定型文をアナウンスする。

しかし、その日のバスの運転手さんは、「今日も一日お疲れさまでした」と、最初に語りかけるように言ってから、定型文をアナウンスし始めた。私は席に座ったとたん、眠気に襲われ、目を開けていられる状態ではなかった。しかし、アナウンスが耳に入ってきて目を開けると、運転手さんがやさしい笑顔でアナウンスをしている姿が鏡に映しだされていた。私はそのとき、何かパワーをもらったような気がした。と同時に疲れがすーっと吹き飛んだ気がした。

そうこうしているうちに、あつというまに私が降りるバス停の名前がアナウンスされた。いつもより何倍も早く到着したのかと思い時計を見たが、いつも通りだった。

バス停に到着したため、降りようと運転手さんの横で定期券を機械に当てた時、運転手さんから声をかけられた。

「お疲れさま。気をつけて帰ってね。」

と。私はいつも通りに、

「ありがとうございました。」

と言ってバスを降りたが、運転手さんのそのひとことを聞いて、無意識に笑顔になっている自分に気がついた。足取り重くバスに乗車したはずなのに、バスを降りてからの私は、疲れがすーっとぬけて体が軽くなっていた。

その運転手さんは、私の後に降りた人にも声をかけていた。サラリーマンの人には、「お疲れさまです。おやすみなさい」と。おばあさんには、「お疲れさま。降りたところに段差がありますので気をつけてくださいね」と。

発車前の車内アナウンスと、バスを降りるときにかける一人ひとりへの違う言葉。この運転手さんの心づかいで、私の疲れがとれたのだ。

しかし、他の運転手さんがしないこのようなことをする運転手さんは、他にもいるのだろうか。私は一人しか出会ったことがない。そうなるこのような声かけは、業務にはないことなのだろう。その運転手さんのやさしさなのだと、私は思った。

金曜日にまた、その運転手さんが運転しているバスに乗った。そのときは、発車する前に、「今週も一週間、お疲れさまでした」というアナウンスが流れた。その一声も運転手さんのやさしさだろう。

私も誰かの心に残る、そんな気づかいができる人になりたい。そして、この世の中がそういう人で満たされてほしい。